

公 開  
資 料 3

第 3 1 8 回 幹 事 会  
公 開 審 議 事 項

令和3年11月25日

日 本 学 術 会 議

## 公開審議事項

件名・議案	提案者	資料 (頁)	提案理由等 (※シンポジウム等、後援関係については概要を記載)	説明者	根拠規定 等	
<b>Ⅲ 公開審議事項</b>						
<b>1. 委員会関係</b>						
提案 1	(機能別委員会) 国際委員会 委員会委員の決定 (追加1件)	国際委員会委員長	4	国際委員会における委員の追加に伴い、委員を決定する必要があるため。	高村副会長	内規12条 3項
提案 2	(分野別委員会) (1)分科会委員の決定 (新規1件、追加3 件) (2)小委員会委員の決 定 (追加1件)	第二部長、第三部 長	5-6	分野別委員会における分科会及び小委員会委員を決定する必要があるため。	第二部 長、第三 部長	(1) (2)内 規18条
<b>2. 協力学術研究団体関係</b>						
提案 3	日本学術会議協力学 術研究団体を指定す ること	科学者委員会委員 長	7	日本学術会議協力学術研究団体への新規 申込のあった下記団体について、科学者 委員会の意見に基づき、指定することと したい。 ①九州考古学会 ②デジタルアーカイブ学会 ③一般社団法人日本エンドオブライフケ ア学会  ※令和3年11月25日現在2,099団体(上 記申請団体を含む)	望月副会 長	会則36条
<b>3. 国際関係</b>						
提案 4	令和3年度代表派遣 について、実施計画 の変更、追加及び派 遣者を決定すること	会長	8	令和3年度代表派遣について、実施計画 の変更、追加及び派遣者を決定する必要 があるため。	高村副会 長	国際交流 事業の実 施に關す る内規第 19条2 項、21 条、22条
<b>4. 学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等 【令和3年度第4四半期】</b>						
提案 5	学術フォーラム 「カーボンニュート ラルの実現に向けて (仮称)」の開催に ついて	高村副会長	11	主催：日本学術会議 日時：令和4年1月～3月頃 場所：日本学術会議講堂 ※日本学術会議が開催主体のため、幹 事会の決定が必要	—	内規別表 第1
提案 6	学術フォーラム「感 染症をめぐる国際政 治のジレンマ-科学 的なアジェンダと政 治的なアジェンダの 交錯」の開催につ いて	第一部部長、政治 学委員会委員長	12-13	主催：日本学術会議 日時：令和4年2月頃 場所：オンライン開催 ※日本学術会議が開催主体のため、幹 事会の決定が必要	—	内規別表 第1
提案 7	学術フォーラム「コ ロナ禍と共に生き る：新学術フォーラ ム型コロナウイルス 感染症の予防と治療 Up-to-date」の開催 について	第二部部長	14-15	主催：日本学術会議 日時：令和4年2月5日(土)13:00～ 16:30 場所：オンライン開催 ※日本学術会議が開催主体のため、幹 事会の決定が必要	—	内規別表 第1

提案8	学術フォーラム 「COVID-19後のデータ社会とオープンサイエンス（仮）」の開催について	オープンサイエンスを推進するデータ基盤とその利活用に関する検討委員会委員長	16	主催：日本学術会議 日時：令和4年3月頃 場所：日本学術会議講堂またはオンライン開催 ※日本学術会議が開催主体のため、幹事会の決定が必要	—	内規別表第1
提案9	学術フォーラム 「ウィズ/ポストコロナ時代の民主主義を考える：「誰も取り残されない」社会を目指して」の開催について	第一部部長、社会学委員会委員長	17-18	主催：日本学術会議 日時：令和4年3月15日（火） 場所：日本学術会議講堂または会議室とオンラインのハイブリッド開催 ※日本学術会議が開催主体のため、幹事会の決定が必要	—	内規別表第1

#### 5. その他のシンポジウム等

提案10	公開シンポジウム 「カーボンニュートラルに向けた情報学の役割」の開催について	情報学委員会委員長	19-20	主催：日本学術会議情報学委員会 日時：令和4年1月12日（水）13:00～17:00 場所：オンライン開催 ※第三部承認	—	内規別表第1
提案11	公開シンポジウム 「原子力総合シンポジウム2021」の開催について	総合工学委員会委員長	21-22	主催：日本学術会議総合工学委員会原子力安全に関する分科会 日時：令和4年1月17日（月）13:30～16:30 場所：オンライン開催 ※第三部承認	—	内規別表第1
提案12	公開シンポジウム 「総合知創出に向けた人文・社会科学のデジタル研究基盤構築の現在」の開催について	心理学・教育学委員会委員長、言語・文学委員会委員長、哲学委員会委員長、社会学委員会委員長、史学委員会委員長、地域研究委員会委員長、情報学委員会委員長	23-24	主催：日本学術会議心理学・教育学委員会・言語・文学委員会・哲学委員会・社会学委員会・史学委員会・地域研究委員会・情報学委員会合同デジタル時代における新しい人文・社会科学に関する分科会 日時：令和4年1月22日（土）13:30～18:30 場所：オンライン開催 ※第一部、第三部承認	—	内規別表第1
提案13	公開シンポジウム 「スポーツ体育健康科学学術フォーラム『スポーツの新たなステージへ～調和のとれた共生社会の構築に向けて～』」の開催について	健康・生活科学委員会委員長	25-26	主催：日本学術会議健康・生活科学委員会健康・スポーツ科学分科会、日本スポーツ体育健康科学学術連合（JAASPEHS）、一般社団法人日本体育・スポーツ・健康学会（JSPEHSS） 日時：令和4年1月29日（土）9:30～16:30 場所：オンライン開催 ※第二部承認	—	内規別表第1
提案14	公開シンポジウム 「子どもの毒性学：子供の高次脳機能への化学物質曝露影響の把握に関わる、臨床、応用および基礎科学の現状と展望」の開催について	薬学委員会委員長、食料科学委員会委員長、基礎医学委員会委員長	27-29	主催：日本学術会議薬学委員会・食料科学委員会・基礎医学委員会合同毒性学分科会 日時：令和4年2月19日（土）13:00～17:00 場所：オンライン開催 ※第二部承認	—	内規別表第1
提案15	日本学術会議in福岡 「若手研究者が考える地方創生と学術の未来（仮）」の開催について	地方学術会議委員会委員長	30-31	主催：日本学術会議 日時：令和4年2月23日（水・祝）12:30～17:25 場所：九州大学椎木講堂（福岡市西区元岡744）（オンサイトとオンラインのハイブリッド） ※日本学術会議が開催主体のため、幹事会の決定が必要	—	内規別表第1

提案16	公開シンポジウム 「生活に身近なOne Health：食品から検出される薬剤耐性菌の現状」の開催について	食料科学委員会委員長	32-33	主催：日本学術会議 食料科学委員会 獣医学分科会・食の安全分科会・畜産学分科会 日時：令和4年2月26日（土）13:30～15:30 場所：オンライン開催 ※第二部承認	—	内規別表第1
提案17	公開シンポジウム 「第7回理論応用力学シンポジウムー力学のさらなる発展に向けてー」の開催について	機械工学委員会委員長、総合工学委員会委員長、土木工学・建築学委員会委員長	34-35	主催：日本学術会議機械工学委員会・総合工学委員会・土木工学・建築学委員会合同理論応用力学分科会 日時：令和4年3月11日（金）13:00～17:00 場所：ハイブリッド開催（日本学術会議講堂及びオンライン） ※第三部承認	—	内規別表第1
提案18	公開シンポジウム 「女性の政治参画をどう進めるか？」の開催について	第一部長、法学委員会委員長、政治学委員会委員長、社会学委員会委員長	36-38	主催：日本学術会議法学委員会ジェンダー法分科会、政治学委員会比較政治分科会、社会学委員会ジェンダー研究分科会、第一部総合ジェンダー分科会 日時：令和4年3月13日（日）13:30～17:30 場所：オンライン開催 ※第一部承認	—	内規別表第1

## 6. 後援

提案19	国内会議の後援をすること	会長	39-40	以下について、後援の申請があり、関係する部に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。  ①シンポジウム「研究環境の変貌と東洋学・アジア研究」 ②令和3年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会 ③第18回日本社会福祉学会フォーラム ④2021年度全国公正研究推進会議 ⑤第95回日本薬理学会年会 企画シンポジウム「疾患の理解に向けた領域融合型研究基盤の構築」	会長	後援名義使用承認基準3(2)ウ
------	--------------	----	-------	---	----	-----------------

## 7. その他

件名		資料(頁)
参考	今後の総会及び幹事会開催予定 今後の幹事会及び総会の日程につきご確認ください。次回幹事会は12月24日（金）13:30～開催。	41

## 【機能別委員会】

- 委員会委員の決定（追加 1 件）  
（国際委員会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
小谷 元子	東北大学理事・副学長	連携会員

【設置：常置（細則第10条第1項）、追加決定後の委員数：12名】

## 【分野別委員会】

## ○分科会委員の決定（新規1件）

（臨床医学委員会・基礎医学委員会合同法医学分科会）

氏名	所属・職名	備考
西谷 陽子	熊本大学大学院生命科学研究部法医学講座教授	第二部会員
鮎澤 純子	九州大学大学院医学研究院准教授/九州大学病院病院長補佐	連携会員
末松 誠	慶應義塾大学医学部医化学教室教授	連携会員
田中 純子	広島大学副学長、大学院医系科学研究科教授	連携会員
中山 淳	信州大学医学部分子病理学教室教授	連携会員
橋本 優子	福島県立医科大学医学部病理病態診断学教授	連携会員
藤田 眞幸	慶應義塾大学医学部教授	連携会員
増田しのぶ	日本大学医学部病態病理学系腫瘍病理学分野教授	連携会員

【設置：第306回幹事会（令和2年12月24日）、決定後の委員数：8名】

## ○分科会委員の決定（追加3件）

（物理学委員会 IAU 分科会）

氏名	所属・職名	備考
中畑 雅行	東京大学宇宙線研究所教授	連携会員

【設置：第302回幹事会（令和2年10月29日）、追加決定後の委員数：25名】

（物理学委員会天文学・宇宙物理学分科会）

氏名	所属・職名	備考
中畑 雅行	東京大学宇宙線研究所教授	連携会員

【設置：第302回幹事会（令和2年10月29日）、追加決定後の委員数：25名】

(薬学委員会・政治学委員会・基礎医学委員会・総合工学委員会・機械工学委員会・材料工学委員会合同先端医療技術の社会実装ガバナンスの課題検討分科会)

氏名	所属・職名	備考
澤 芳樹	大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻未来医療学寄附講座 特任教授	第二部会員
高橋 政代	株式会社ビジョンケア代表取締役社長（本務）、（以下兼務）理化学研究所生命機能科学研究センター網膜再生医療研究開発プロジェクト客員主管研究員、神戸市立神戸アイセンター病院研究センター長	連携会員

【設置：第 312 回幹事会（令和 3 年 5 月 27 日）、追加決定後の委員数：14 名】

○小委員会委員の決定（追加 1 件）

(総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会計算力学小委員会)

氏名	所属・職名	備考
大出真知子	国立研究開発法人物質・材料研究機構構造材料研究拠点構造材料研究拠点設計・創造分野計算構造材料グループ主任研究員	連携会員
金田千穂子	東北大学国際集積エレクトロニクス研究開発センター教授	連携会員
高橋 桂子	早稲田大学総合研究機構グローバル科学知融合研究所上級研究員/研究院教授	連携会員

【設置：第 307 回幹事会（令和 3 年 1 月 28 日）、追加決定後の委員数：16 名】

日本学術会議協力学術研究団体の新規指定について

	団体名	概 要
1	九州考古学会 ( <a href="http://www.kyushukokogaku.jp/">http://www.kyushukokogaku.jp/</a> )	本団体は、九州を中心とした考古学研究の発展及び会員相互の親睦を目的とするものである。
2	デジタルアーカイブ学会 ( <a href="http://digitalarchivejapan.org/">http://digitalarchivejapan.org/</a> )	本団体は、デジタルアーカイブに関わる研究と、産官学民の相互交流を促すことを通じて、デジタルアーカイブの発展に寄与することを目的とするものである。
3	一社) 日本エンドオブライフケア学会 ( <a href="http://endoflifecare.jp/">http://endoflifecare.jp/</a> )	本団体は、我が国独自の生活文化や価値観に根差したエンドオブライフケアを発展させるために学術的かつ学際的研究を蓄積し、その成果を実践や教育に活用し、世代間交流や国際交流などを通して健康と福祉及び文化の発展に貢献することを目的とするものである。

## 令和3年度代表派遣実施計画の追加・変更及び会議派遣者の決定について

以下のとおり、令和3年度代表派遣実施計画の追加・変更及び派遣者の決定を行う。

	会議名称	会 期	開催地/ 形式等	派遣候補者 (職名)	内 容
1	アジア科学アカデミー・科学 協会連合(AASSA)総会及び 理事会	10月15日	オンライン	澁澤 栄 連携会員 (東京農工大学卓越リーダー養成機構特任 教授)	・代表派遣の取止め ※第316回幹事会(令和3年9 月30日)にて派遣決定
2	IAP Policy Board Meeting	11月29日	オンライン	高村 ゆかり 第一部会員 (東京大学未来ビジョン研究センター教授)	・代表派遣計画の追加 ・派遣者の決定 ※IAP Policy 理事として出席する ため
3	国際哲学人文学会議(CIPSH) 理事会	12月13日 ～ 12月16日	オデンセ (デンマーク)	藤原 聖子 連携会員 (東京大学大学院人文社会系研究科教授)	・代表派遣の取止め ※第308回幹事会(令和3年2 月25日)にて派遣決定、第311 回幹事会(令和3年4月21日) にて会期変更
4	第35回国際美術史学会世界 大会	1月17日 ～ 1月21日	サンパウロ (ブラジル) / ハイブリッド	秋山 聡 連携会員 (東京大学大学院人文社会系研究科教授)	・派遣者の決定 ※実施計画については第308回 幹事会(令和3年2月25日)に て承認済み。 ※オンライン参加

学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等  
【令和3年度第4四半期】

<概要>

日本学術会議主催学術フォーラム

- (1) 経費負担を要するものは、原則として年間10回程度
- (2) 経費負担又は職員の人的支援を要するものは、四半期ごとに計3件まで
- (3) 土日祝日開催のものは、四半期ごとに2件まで

○今回提案【令和3年度第4半期】 全5件

	提案番号	テーマ	開催希望日時	開催場所	経費負担	職員の 人的支援
1	提案5	「カーボンニュートラルの実現に向けて（仮称）」	令和4年1～3月頃	日本学術会議講堂	要	要
2	提案6	「感染症をめぐる国際政治のジレンマ-科学的なアジェンダと政治的なアジェンダの交錯」	令和4年2月頃	オンライン	要	要
3	提案7	「コロナ禍と共に生きる：新型コロナウイルス感染症の予防と治療 Up-to-date」	令和4年2月5日（土）	オンライン	要	要
4	提案8	「COVID-19 後のデータ社会とオープンサイエンス（仮）」	令和4年3月頃	日本学術会議講堂またはオンライン	要	要
5	提案9	「ウイズ/ポストコロナ時代の民主主義を考える：「誰も取り残されない」社会を目指して」	令和4年3月15日（火）	日本学術会議講堂または会議室とオンラインのハイブリッド	要	要

(参考) -----

■今回提案を含めた合計数

学術フォーラム（平日 6 件/土日 7 件） 全 13 件

（内訳）※現在の 13 件中、13 件は経費又は人的負担要

		第 1 四半期 (4 月～6 月)	第 2 四半期 (7 月～9 月)	第 3 四半期 (10 月～12 月)	第 4 四半期 (1 月～3 月)
学術フォーラム	(土日)	2	2	2	1
	(平日)	0	0	2	4
合計		2	2	4	5

日本学術会議主催学術フォーラム  
「カーボンニュートラルの実現に向けて（仮称）」の開催について（案）

1. 主 催：日本学術会議
2. 日 時：令和4年1～3月頃
3. 場 所：日本学術会議講堂
4. 分科会等の開催：無
5. 開催趣旨：  
学術の諸科学の専門知と知の総合化により、2050年カーボンニュートラルの実現に向けた諸課題について、学術の観点から審議し、広く社会にその成果を発信するために開催。
6. 次第：未定

日本学術会議主催学術フォーラム  
「感染症をめぐる国際政治のジレンマ—科学的なアジェンダと  
政治的なアジェンダの交錯」の開催について

1. 主催：日本学術会議
2. 日時：令和4年2月頃
3. 場所：オンライン（登壇者はZoomミーティングで、視聴者は、ウェビナーでの参加を予定）
4. 分科会等の開催：なし

5. 開催趣旨：

現在の国際社会は、伝統的な安全保障の脅威に加えて新型コロナウイルス・パンデミックのような非伝統的な脅威にも直面している。感染症の脅威に対処するためには高度な専門知が要求され、政策決定者はその専門知に基づいて政策を立案・実施しなければならない。だが国家のレベルでは経済対策と感染症対策を巡る利害対立が、また国際的には医療資源を持つ国とそれを持たない国との間の利害対立が、益々先鋭化している。国家を超える共通政府を持たない国際社会は、はたしてこのような重層的な利害対立を克服して科学的知見に基づいて感染症に立ち向かうことができるのだろうか。既に日本学術会議は、コロナ禍を共に生きる#3として「パンデミックに世界はどう立ち向かうのか～国際連携の必然性と可能性～」と題する学術フォーラムを開催している。本企画では、そこで明らかにされる国際連携の必要性やITによって開かれるグローバルな情報共有や格差解消の可能性を前提とした上で、政治学の視点から感染症をめぐる国際制度の脆弱性や国家の政治体制のあり様について検討し、感染症の脅威から人類を守るための政治や行政の役割について考察する。具体的な論点としては、今回のパンデミックへの世界保健機関（WHO）の対応をどう評価すべきか、ワクチンや治療薬への公平なアクセスをどのように実現するのか、日本を含むアジア諸国の対応は欧米諸国の対応とどのような点で異なっているのかなどを想定している。これらの論点について、世界保健機関での実務経験を有する国際政治学者や知的所有権に詳しい国際政治経済学者、さらにはアジアや欧州の感染症対策に詳しい地域研究・比較政治学者や行政学者を交えて多角的に検討し、感染症を巡る政治的な課題への国民の理解を促進したい。

6. 次第：

「COVAX ファシリティとワクチン外交」

勝間 靖（早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授）

「COVID-19 ワクチンをめぐる公衆衛生と知的財産権保護の相克—国際政治経済論の視点から」

古城 佳子（日本学術会議連携会員、青山学院大学国際政治経済学部教授）

「パンデミックの比較政治学—アジアとジェンダーの視点から」

竹中 千春（日本学術会議連携会員、立教大学法学部教授）

「コロナ禍と欧州のジレンマ—『価値の同盟』か、『新冷戦』か、あるいは『アジアの連携』か？」

羽場 久美子（日本学術会議連携会員、神奈川大学国際日本学部教授）

「新型コロナウイルス感染症への日本の対応と課題—行政学の視点から」

城山 英明（日本学術会議連携会員、東京大学公共政策大学院教授）

（全員了承済み）

（下線は、日本学術会議関係者）

日本学術会議主催学術フォーラム  
「コロナ禍と共に生きる：新型コロナウイルス感染症の予防と治療Up-to-date」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議
2. 日 時：令和4年2月5日（土）13：00～16：30
3. 場 所：オンライン開催
4. 分科会等の開催：なし

5. 開催趣旨：

2020年1月に我が国で最初の感染者の報告がされて以来、新型コロナウイルス感染症（Covid-19）は全国に拡大した。特に第5波では、それまでと比較するとはるかに多い新規感染者が報告され、重症者数も過去最多となった。この間、4回に渡る緊急事態宣言が発令されたが、累計170万人以上という多くの方が感染し、18000人以上の尊い命が失われた。ようやく新規感染者は減少傾向となり4回目の緊急事態宣言が解除され、感染状況は一旦落ち着いているが、感染の再拡大の懸念もあり第6波に備える必要がある。本フォーラムでは、Covid-19を克服するための2本柱である新型コロナワクチンと治療薬に焦点を当て、最新情報を分かりやすく解説することを目的とする。また、最近、厚生労働省が特例として薬局での販売を認可した抗原検査キットをはじめ Covid-19 の検査法の最新情報についても取り上げる。

6. 次第：

司会

武田 真莉子（日本学術会議連携会員、神戸学院大学薬学部教授）

13:00

開会の辞

望月真弓（日本学術会議副会長・第二部会員）

門田守人（日本医学会連合会長）

13:10

趣旨説明

高倉 喜信（日本学術会議連携会員、京都大学薬学研究科教授）

座長

伊藤 美千穂 (日本学術会議連携会員、京都大学薬学研究科准教授)

- 13 : 15 「抗原検査はどう活用するのが良い? (仮題; 変更予定)」  
横井 正之 (パスカル薬局) (講演 25 分+質疑 10 分)
- 13 : 50 「新型コロナワクチンの Up-to-date (仮題)」  
宮坂昌之 (大阪大学免疫学フロンティア研究センター招聘教授)  
(講演 25 分+質疑 10 分)
- 14 : 25 「新型コロナ治療薬の Up-to-date (基礎) (仮題)」  
前仲勝実 (北海道大学薬学研究院教授) (交渉中)  
(講演 25 分+ 質疑 10 分)

15 : 00~15 : 15 休憩

座長

磯 博康 (日本学術会議会員・第二部会員)

- 15 : 15 「新型コロナウイルス感染症の予防と治療の臨床 (仮題)」  
長尾美紀 (京都大学医学研究科教授) (講演 25 分+質疑 10 分)
- 15 : 50 「新型コロナウイルス感染症の予防と治療: 米国の状況 (仮題)」  
峰 宗太郎 (米国立研究機関博士研究員) (講演 25 分+質疑 10 分)
- 16 : 25 閉会の辞  
佐々木茂貴 (日本薬学会会頭)

(下線は、日本学術会議関係者)

日本学術会議主催学術フォーラム  
「COVID-19後のデータ社会とオープンサイエンス（仮）」の開催について

1. 主 催：日本学術会議
2. 日 時：令和4年3月頃
3. 場 所：日本学術会議講堂またはオンライン
4. 分科会等の開催：なし

5. 開催趣旨：※詳細は検討中

COVID-19によって社会は大きく変容し、特に ICT を活用した非連続な変容を科学、産業、生活にもたらしている。これらは図らずもオープンサイエンスの議論で予察されていた世界をより身近なものとしており、様々な危機に対して予防・準備・対応・回復に対してデータを活用した科学が役立つことが実証され、また、より強靱な社会に向けた取り組みが検討されている。本フォーラムでは、2021年より開始された第6期科学技術・イノベーション基本計画やG7コーンウォール（英国）で発出されたResearch Compact（研究協約）等、日本と世界の潮流を念頭に、また、学問の自由を踏まえて、最新の事例と共にオープンサイエンス時代の科学と社会の在り方を議論する。グローバルな課題に関してどのように国際協力を推進し、研究の透明性とインテグリティを向上させ、イノベーションの推進と知識の前進のため信頼性のある自由なデータ流通を促進できるか、その際の研究のセキュリティはどのように確保されるべきか等について論じる。

6. 次第：時間・テーマ・講演者いずれも検討中

日本学術会議主催学術フォーラム  
「ウィズ／ポストコロナ時代の民主主義を考える：  
「誰も取り残されない」社会を目指して」の開催について

1. 主 催：日本学術会議
2. 日 時：令和4年3月15日（火）
3. 場 所：日本学術会議講堂または会議室とオンラインのハイブリッド
4. 分科会等の開催：なし

5. 開催趣旨：

2020年初頭から世界的に感染拡大した COVID-19 は、それ以前から世界が抱えていた問題を顕在化させ、増幅した。差し迫った疫病の不安は、リスク配分に関する不公平感や、全体の安全と私的自由の相克、弱者への対応の不備など、様々な問題を改めて浮かび上がらせた。沸騰する議論のなかで、われわれの社会の基盤である民主主義や社会信頼の揺らぎを危惧する声さえ上がっている。今後、新型コロナウイルスが完全に制圧されるにせよ、あるいはウィズコロナ社会へシフトするにせよ、私たちは今、さらなる混乱を避け、危機を柔軟にのり超える社会のあり方を冷静に構想する必要があるだろう。本フォーラムは、社会理論研究の立場から、COVID-19 の波に翻弄される社会の動態を俯瞰的に検討し、「誰も取り残されない」未来を展望する。

6. 次第：

総合司会

有田 伸（日本学術会議第一部会員、社会理論分科会幹事、東京大学社会科学研究所教授）

13:00～13:10 開会挨拶・開催趣旨

遠藤 薫（日本学術会議連携会員、社会理論分科会委員長、学習院大学）

13:10～14:10 講演

13:10～13:30 「コロナ・パンデミックと未来社会」

山極 壽一（日本学術会議連携会員、前会長、大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所長）

- 13:30～13:50 「コロナ・パンデミックと民主主義」  
安中 進（早稲田大学）
- 13:50～14:10 「コロナ・パンデミックとケアの倫理」  
山田 陽子（追手門大学）
- 14:10～14:25 休憩
- 14:25～16:40 パネルディスカッション  
ファシリテーター：  
筒井 淳也（日本学術会議連携会員、社会理論分科会幹事、立命館大  
学産業社会学部教授）
- 14:25～14:55 今田 高俊（日本学術会議連携会員、社会理論分科会委員、東京工業  
大学名誉教授、大学共同利用機関法人情報／システム研究機構統計  
数理研究所データ科学研究系客員教授）（10分）
- 盛山 和夫（日本学術会議連携会員、社会理論分科会委員、東京大学  
名誉教授）（10分）
- 落合 恵美子（日本学術会議連携会員、社会理論分科会委員、京都大  
学大学院文学研究科教授）（10分）
- 14:55～16:00 講演者も交えてディスカッション
- 16:00～16:40 ギャラリーを交えたディスカッション
- 16:40～16:50 総括・閉会挨拶  
山田 真茂留（日本学術会議連携会員、社会理論分科会副委員長、  
早稲田大学文学学術院教授）

（下線は、日本学術会議関係者）

公開シンポジウム  
「カーボンニュートラルに向けた情報学の役割」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議情報学委員会
2. 共 催：（予定）一般社団法人情報処理学会、一般社団法人電子情報通信学会、一般社団法人映像情報メディア学会、大学 ICT 推進協議会 (AXIES)
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和4年1月12日（水）13：00 ～ 17：00
5. 場 所：オンライン開催
6. 分科会等の開催：開催予定あり
7. 開催趣旨：

政府は2050年のカーボンニュートラルの実現に向けて、益々深刻さを増す気候変動（地球温暖化）への積極的な対応を成長の機会と捉えて、さまざまな対応策を打ち出してきている。情報技術はこれまで日々の生活や産業に多くのイノベーションをもたらして来た。カーボンニュートラルへの対応においても情報技術の活用は不可欠である。本シンポジウムでは、「カーボンニュートラルに向けた情報学の役割」というテーマで、カーボンニュートラルと関連する情報学分野の最近の研究動向に関連した講演とパネル討論を行い、情報学の発展を促す施策からそのグローバルな社会的インパクトまでさまざまな話題に関する議論を行う。

第一部では、文部科学省、米国 NSF 等から招待講演者をお招きし、情報学分野の最近の研究戦略に関して講演をいただき、2022年の科学政策の戦略的なポイントは何か、生のメッセージを聞く貴重な機会となる。

第二部では、カーボンニュートラルの実現に向けた国内外の取り組み、経済面での取り組みと情報技術活用の現状や期待について紹介する。最後にさまざまな分野でのカーボンニュートラルの実現にむけた現状とその展開について論じる。

8. 次 第：

13:00 開会挨拶 相澤 清晴（日本学術会議第三部会員、東京大学大学院情報理工学系研究科教授）

第一部 情報科学技術の戦略

13:10 講演 1 川口 悦生（文部科学省研究振興局参事官）

13:30 講演2 講演者調整中

14:00 講演3 講演者調整中

14:30～14:50 (休憩)

## 第二部 情報学はカーボンニュートラルに何ができるか (仮)

14:50 「カーボンニュートラルへの国際的潮流と日本の政策について」 高村 ゆかり  
(日本学術会議会員、副会長、東京大学未来ビジョン研究センター教授)

15:20 「情報技術によるカーボンニュートラル実現への期待」 松橋 隆治 (東京大学大学院工学系研究科教授)

15:40 「カーボンバジェットと企業リスク」 森澤 充世 (カーボンディスクロージャープロジェクトジャパンディレクター)

16:00 「ナッジによる省エネ行動」 磐田 朋子 (芝浦工業大学システム理工学部准教授)

16:20 パネルディスカッション

(司会) 相澤 清晴 (日本学術会議第三部会員、東京大学大学院情報理工学系研究科教授)

(パネリスト) 松橋 隆治 (東京大学大学院工学系研究科教授)

森澤 充世 (カーボンディスクロージャープロジェクトジャパンディレクター)

磐田 朋子 (芝浦工業大学システム理工学部准教授)

東野 輝夫 (日本学術会議連携会員、京都橘大学工学部教授)

木俣 豊 (日本学術会議連携会員、国立研究開発法人情報通信研究機構経営企画部部長)

16:50 閉会挨拶 谷口倫一郎 (日本学術会議第三部会員、九州大学理事・副学長)

17:00 閉会

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

(下線の登壇者は、主催委員会委員)

公開シンポジウム  
「原子力総合シンポジウム 2021」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議総合工学委員会原子力安全に関する分科会
2. 共 催：一般社団法人日本原子力学会
3. 後 援：（検討中）
4. 日 時：令和4年1月17日（月）13：30～16：30
5. 場 所：オンライン開催
6. 分科会等の開催：開催予定なし

7. 開催趣旨：

原子力総合シンポジウムは、我が国の原子力について総合的に議論を行う場である。日本学術会議と日本原子力学会等が協力し、各界の識者を交えて、これまで50年以上にわたり中長期的視点から議論が行われてきた。

今年は、福島第一原子力発電所事故から10年目であると同時に、地球環境対策として脱炭素の活動が加速し始めた年でもある。そこで今回の原子力総合シンポジウムでは、「福島第一原子力発電所事故から10年の今、考えること」をテーマとして取り上げ、福島事故を客観的視点で総括し、未来を俯瞰することで、これからの安全とエネルギー政策を考える。

8. 次 第：

1) 開会の挨拶

13:30-13:40

関村 直人（日本学術会議連携会員、東京大学副学長 大学院工学系研究科教授）

2) 講演

13:40-14:30

基調講演1 「福島第一原子力発電所事故から10年：安全規制と社会の信頼」（仮題）

藤田 玲子（日本原子力学会元会長）

14:30-15:20

基調講演2 「タイトル未定」

Byung Joo Min（韓国原子力学会元会長、Visiting Professor, Ulsan National Institute of Science and Technology）

3) パネルディスカッション

「2050年の世界のエネルギーシステムとしての原子力の意義」

15:20-16:20

コーディネーター：

大倉 典子（日本学術会議第三部会員、芝浦工業大学名誉教授・総合研究所  
特任教授）

パネラー：

藤田 玲子（日本原子力学会元会長）

Byung Joo Min（韓国原子力学会元会長）

山口 彰（日本原子力学会会長、東京大学大学院工学系研究科原子力専攻教  
授）

4) 閉会の挨拶

16:20-16:30

山口 彰（日本原子力学会会長、東京大学大学院工学系研究科原子力専攻教  
授）

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム  
「総合知創出に向けた人文・社会科学のデジタル研究基盤構築の現在」  
の開催について

1. 主催：日本学術会議心理学・教育学委員会・言語・文学委員会・哲学委員会・社会学委員会・史学委員会・地域研究委員会・情報学委員会合同デジタル時代における新しい人文・社会科学に関する分科会

2. 共催：なし

3. 後援：未定（関連学会に依頼予定）

4. 日時：令和4年1月22日（土）13：30～18：30

5. 場所：オンライン開催

6. 分科会等の開催：開催予定なし

7. 開催趣旨：

第6期科学技術・イノベーション基本計画において人文・社会科学に期待される総合知の実現には、研究データの構築と利活用が一つの鍵となっており、研究データインフラの構築も徐々に進みつつある。しかしながら、日本におけるこれまでの人文・社会科学における研究データの構築は、ごく一部の例外を除き、決して十分に実施できてきたとは言えない状況である。これには日本文化ならではの事情や技術的制約など、様々な原因があるが、そうした状況が徐々に改善されてきたこともあり、ようやく人文・社会科学における研究データの本来の課題に向き合う環境が整いつつある。本シンポジウムでは、こうした状況を踏まえ、現状の課題を共有するとともに、今後の展開やその応用可能性について検討する。

8. 次第：

13:30 開会挨拶 永崎 研宣（日本学術会議連携会員、一般財団法人人文情報学研究所主席研究員）

13:40

報告1. 人文・社会科学における研究データの構築のための国際標準と課題

1-1 学術研究のための多言語・多文字への対応と多漢字・変体仮名

高田 智和（国立国語研究所准教授）

- 1-2 人文学向け国際標準に基づく東アジア・日本のテキストの構造化  
永崎 研宣（日本学術会議連携会員、一般財団法人人文情報学研究 所主  
席研究員）
- 1-3 Web 画像応用の規格 IIIF と歴史 GIS から総合知へ  
北本 朝展（国立情報研究所教授・人文学オープンデータ共同利用セン  
ター長）

15:20

報告2. 様々なコンテキストによるデータの構築から総合知へ

- 2-1 研究を志向した専門的なデータの構築  
増田 知子（名古屋大学法学研究科教授）、佐野智也（名古屋大学法学  
研究科特任講師）
- 2-2 クラウドソーシングによるデータ構築から古地震研究へ  
加納 靖之（東京大学地震研究所准教授）
- 2-3 大規模デジタル化事業とそこから産み出されるデータの可能性  
大場 利康（国立国会図書館電子情報部長）

17:00 コメント：総合知に向けた人文社会科学データの観点から

矢野 桂司（日本学術会議第一部会員、立命館大学文学部教授）

橋本 隆子（日本学術会議連携会員、千葉商科大学副学長）

西田 眞也（日本学術会議第一部会員、京都大学大学院情報学研 究科  
教授）

18:00 全体ディスカッション

18:30 閉会

9. 関係部の承認の有無：第一部、第三部承認

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム  
「スポーツ体育健康科学学術フォーラム  
『スポーツの新たなステージへ～調和のとれた共生社会の構築に向けて～』  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議健康・生活科学委員会健康・スポーツ科学分科会、日本スポーツ体育健康科学学術連合（JAASPEHS）、一般社団法人日本体育・スポーツ・健康学会（JSPEHSS）
2. 共 催：なし
3. 後 援：スポーツ庁、全国体育系大学学長・学部長会、公益社団法人全国大学体育連合、独立行政法人日本スポーツ振興センター、公益財団法人日本スポーツ協会、公益財団法人日本オリンピック委員会、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会、特定非営利活動法人日本オリンピック・アカデミー（すべて現在交渉中）
4. 日 時：令和4年1月29日（土）9:30～16:30
5. 場 所：オンライン開催
6. 分科会の開催：開催予定なし
7. 開催趣旨：

本シンポジウムでは、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催準備期間に進められてきたスポーツに関わる政策、スポーツ組織の活動によって見出されたスポーツ界の課題について、ポスト東京2020大会に向けた議論を行う。課題のうち、1) 体罰・暴力のないスポーツ指導の在り方、2) 多様な人々が共生する社会においてスポーツが役割を発揮するための学術および組織的体制を主なテーマとする。
8. 次 第：

9:30 開会挨拶 阿江 通良（JAASPEHS 代表、日本体育大学スポーツ文化学部教授）  
菊 幸一（JSPEHSS 会長、筑波大学体育系教授）

9:45 全体趣旨・スケジュール説明  
清水 紀宏（JAASPEHS 運営委員長、筑波大学体育系教授）

10:00～12:30 【第一部】  
コーディネーター 清水 紀宏（JAASPEHS 運営委員長、筑波大学体育系教授）

スポーツ人材の専門化（知性）とその質保障～スポーツ科学教育の高質化～

■日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格制度のビジョン

森岡 裕策（公益財団法人日本スポーツ協会専務理事）

■スポーツ人材の資格制度の在り方－国家資格の可能性と必要性－

土井 香苗（ヒューマン・ライツ・ウォッチ東京ディレクター）

■専門職人材養成課程での質保障、体育・スポーツ・健康科学のカリキュラム基準

岡出 美則（日本体育大学スポーツ文化学部長）

■専門職業人としてのジョブ・マーケットの現状と開発可能性と必要性

原田 宗彦（大阪体育大学学長）

13:30～16:00 【第二部】

コーディネーター 來田 享子（日本学術会議連携会員、JAASPEHS 副代表、  
JSPEHSS 副会長、中京大学スポーツ科学部教授）

多様性が調和するスポーツ文化の確立に向けた学術の貢献

■学術の担い手としての大学組織におけるジェンダー・ダイバーシティ

－日本学術会議公開シンポジウムの成果と日本女性医学会の知見から－

小松 浩子（日本学術会議第二部会員、日本女性医学会理事、日本赤十字  
九州国際看護大学学長）

■スポーツにおける人権保障のための組織的体制に関する国際動向

杉山 翔一（弁護士）

■発達障害の人々とメンタルヘルスケアの視点から考える戦略

神尾 陽子（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人国立精神・神経医  
療研究センター客員研究員、お茶の水女子大学客員教授）

■スペシャルオリンピックスの取り組みから考える

有森 裕子（公益財団法人スペシャルオリンピックス日本理事長）

16:00～16:20 全体総括

宮地 元彦（日本学術会議第二部会員、早稲田大学スポーツ科  
学学術院教授）

16:20 閉会挨拶

來田 享子（日本学術会議連携会員、JAASPEHS 副代表、JSPEHSS 副会  
長、中京大学スポーツ科学部教授）

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）

## 公開シンポジウム

「子どもの毒性学：子供の高次脳機能への化学物質曝露影響の把握に関わる、  
臨床、応用および基礎科学の現状と展望」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議薬学委員会・食料科学委員会・基礎医学委員会合同毒性学分科会
2. 共 催：日本毒性学会
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和4年2月19日（土）13:00～17:00
5. 場 所：オンライン開催
6. 分科会の開催：開催予定あり

## 7. 開催趣旨：

自閉スペクトラム症（ASD）は診断基準に時代の変遷とともに変更が加わったこと、学童としての教育の場の提供を促す活動が進んでいることなどにより、症例数の経年的な増加が実質的にはどの程度であるのかは、はっきりしない面があるが、少なくとも増加していることは事実らしい。そして、逆に統合失調症（SCZ）の新規症例は減少していることも、事実の様である。従来、ASD と SCZ には共通する症候や病態があり、若年 SCZ 症例は ASD に合併する症例も含まれる、等の関連性が指摘されてきた。そして、Auts2 遺伝子など、ASD との関連が指摘される遺伝要因に関する報告からも ASD と SCZ の重複関係が報告されるようになった。基礎的研究から、Auts2 遺伝子の機能が神経細胞において解明されつつあり、ASD 様の形質が実験動物で検討され、また、アセフェートなどの神経標的性を有する化学物質による Auts2 遺伝子の発現制御に対する影響を示唆するデータも認められる。

これらの情報を基にすると、現在の臨床で経験される ASD 増加と SCZ 減少という状況は、「ASD は3歳ごろまでに診断されるのに対して、SCZ は20歳ごろに初診となることが多いので、ASD 症例のなかに従来なら20歳になって SCZ として診断されたであろう症例が含まれていて、3歳時からの種々の介入の成果として SCZ の新規症例数が減少した」のではないか、という推論が生み出される。これと同時に、それでも「ASD 症例数と SCZ 症例数の総和」は増加しているかという問題が提起される。

化学物質の環境曝露が ASD 増加に寄与している可能性を示唆する情報が蓄積しているが、この可能性はやはり高いのか、それとも遺伝的要因と診断基準変更と社会的介入などのみで説明がつくのか、あるいは、両方なのかという問題は、それ自体が毒性学的に重要な意味を持つとともに、ここで列挙した諸条件を吟味する過程そのものが毒性学研究にとって重要な意味を持つと考えられる。そして、この様な学際的検討が日本学術会議への提言等に反映される意義を有すると考えられる。

本企画の契機の一つとなった文科省のグラフ（注）の分析、ASD と SCZ の診断基準等の変遷と症例数の関係、Autism 遺伝子など分子生物学的な ASD 及び SCZ の解析の現状と展望、化学物質曝露を含む環境要因の影響（epigenetic effect を含む）、等の論点に対して、当該分野の専門家によるシンポジウムを企画する。

（注）[https://www.mext.go.jp/content/20200317-mxt\\_tokubetu01-000005538-02.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200317-mxt_tokubetu01-000005538-02.pdf)

## 8. 次 第：

13:00~13:10

### 1) 開会挨拶

菅野 純（日本学術会議連携会員、国立医薬品食品衛生研究所客員研究員・名誉職員、日本毒性学会理事長）

### 2) 講演

座長 姫野 誠一郎（日本学術会議連携会員、昭和大学薬学部客員教授）

13:10~13:40

「出生体重と子どもの神経発達の関係」

市川 剛（獨協医科大学・医学部講師）

13:40~14:10

「自閉スペクトラム症の環境要因」

松崎 秀夫（福井大学・子どものこころの発達研究センター・教授）

14:10~14:40

「自閉症と統合失調症の疫学」

土屋 賢治（浜松医科大学・子どものこころの発達研究センター・特任教授）

休憩 14:40~14:50

14:50~15:20

「ゲノム解析に基づいた ASD/SCZ の研究」

尾崎 紀夫 (日本学術会議会員・第二部幹事、名古屋大学大学院医学系研究科教授)

15:20~15:50

「アセフェート経口投与によるマウスの情動認知行動影響」

種村 健太郎 (東北大学大学院・農学研究科教授)

15:50~16:20

「AUTS2 遺伝子と脳神経発達、そして精神疾患」

星野 幹雄 (国立精神・神経センター神経研究所・診断研究部部长)

休憩 16:20~16:30

16:30~17:10

3) パネルディスカッション

座長：菅野 純 (日本学術会議連携会員、国立医薬品食品衛生研究所客員研究員・名誉職員、日本毒性学会理事長)

パネリスト：

各講演者、

関野 祐子 (日本学術会議連携会員、東京大学大学院薬学系研究科特任教授)

姫野 誠一郎 (日本学術会議連携会員、昭和大学薬学部客員教授)

17:10~17:20

4) 閉会の辞

平井みどり (日本学術会議連携会員、兵庫県赤十字血液センター所長)

9. 関係部の承認の有無： 第二部承認

(下線の登壇者等は、主催分科会委員)

日本学術会議 in 福岡「若手研究者が考える地方創生と学術の未来（仮）」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議
2. 共 催：九州大学
3. 後 援：福岡県、福岡市その他の関係機関（依頼予定）
4. 日 時：令和4年2月23日（水・祝）12：30～17：25
5. 場 所：九州大学椎木講堂（福岡市西区元岡744）  
（オンサイトとオンラインのハイブリッド）  
※ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況等によって、  
開催形式等を見直す場合がある。
6. 開催趣旨：新しい時代を切り開くには、若手リーダーの力が必要である。グローバル社会では、若手リーダーが政治や経済の世界を牽引するのはもはや驚くべきことではない。日本が国際競争力の低迷状態から抜け出し、再び世界トップに返り咲くためには、組織が積極的に若手を登用し、世代交代を進めることが極めて重要である。日本でも、地方を中心に若手リーダーが台頭し始めている。今回の日本学術会議 in 福岡では、「若手が活躍できる社会」をいかに実現するか、地方創生における若者のリーダーシップの現状と課題、未来のあるべき姿について、日本学術会議関係者、地元産学官代表者、そして若手研究者間で活発な議論を進める。
7. プログラム案
  - 第一部 幹事会懇談会（非公開）  
12：30～13：30  
九州大学の教員による話題提供及びそれを踏まえた自由討議  
参加者：幹事会構成員、九州大学執行部、会員、連携会員、  
地元産学官（50名程度）
  - 第二部 学術講演会「若手研究者が考える地方創生と学術の未来（仮）」（公開）  
総合司会：岸村頭広（日本学術会議連携会員、九州大学准教授・総長補佐）  
14：00～14：10 開会挨拶  
未 定（日本学術会議）  
石橋 達朗（九州大学総長）

- 14 : 11～14 : 15 総合司会による趣旨説明
- 14 : 16～14 : 35 講演1 「社会課題解決に貢献する大学への期待、政策立案の立場から（仮）」  
 齊藤 卓也  
 （文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課長）
- 14 : 36～14 : 55 講演2 「地域におけるイノベーション政策の現状と課題ー大学と地域の関係性に注目して（仮）」  
標葉 隆馬  
 （日本学術会議若手アカデミー特任連携会員、大阪大学准教授）
- 14 : 56～15 : 15 講演3 「地方国立大学における産学・地域連携の「中のひと」～社会と大学の界面観察」  
 中武 貞文（鹿児島大学准教授）
- 15 : 16～15 : 25 休憩
- 15 : 26～15 : 45 講演4 「地域文化アイデンティティの再構築と実践～誇りと尊厳ある生き方（Well-being）を取り戻すために～」  
 井上 果子（宮崎大学准教授）
- 15 : 46～16 : 05 講演5 「若手研究者が地域に出ていくために～意義・葛藤・評価から考える～」  
小野 悠  
 （日本学術会議連携会員、豊橋技術科学大学講師）
- 16 : 06～16 : 15 主に分科会からの報告
- 16 : 16～16 : 25 休憩
- 16 : 26～17 : 15 総合討論・パネルディスカッション  
 【パネリスト】  
 谷口 功（独立行政法人国立高等専門学校機構理事長）（依頼予定）  
 齊藤 卓也（文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課長）  
標葉 隆馬（日本学術会議若手アカデミー特任連携会員、大阪大学准教授）  
 中武 貞文（鹿児島大学准教授）  
 井上 果子（宮崎大学准教授）  
小野 悠（日本学術会議連携会員、豊橋技術科学大学准教授）
- 17 : 16～17 : 20 シンポジウム総括  
安田 仁奈（日本学術会議連携会員、宮崎大学准教授）
- 17 : 21～17 : 25 閉会挨拶  
玉田 薫（日本学術会議九州・沖縄地区会議代表幹事、九州大学副学長・主幹教授）

（下線の講演者等は、日本学術会議の会員・連携会員）

公開シンポジウム  
「生活に身近な One Health：食品から検出される薬剤耐性菌の現状」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議食料科学委員会獣医学分科会、食の安全分科会、畜産学分科会
2. 共 催：（予定）公益社団法人日本獣医学会、日本家畜衛生学会
3. 後 援：（予定）北海道大学、酪農学園大学、東京海洋大学、相模女子大学、大阪国際大学、北里大学獣医学部
4. 日 時：令和4年2月26日（土）13：30～15：30
5. 場 所：オンライン開催
6. 分科会の開催：開催予定あり

7. 開催趣旨：

薬剤耐性に起因する死亡者数は年間70万人（全世界：2013年）と報告されており、2050年までには「がん」を越えて死因の第一位となる1000万人の死亡が危惧されています。本シンポジウムは、市民との対話「One Health シンポジウム」の一環として、食品と薬剤耐性菌の課題について4名の専門家にご講演頂きます。さて、食品を介してヒトの健康に影響を及ぼす細菌の薬剤耐性については、ヒトと家畜・家禽・水産物との関連性の評価研究が進んでいます。農畜水産物の生産現場ではヒトの医療現場よりも多くの抗微生物薬が使用されています。一方、家畜・家禽は経済動物という側面から成長促進・飼料効率の改善・生産性向上の目的で抗菌性物質を使用し、安定した食料供給と家畜・家禽の健康管理（動物福祉の5つの自由：病気からの自由）にも繋がっています。今回のシンポジウムでは、生活に身近な食肉・魚・野菜・果物などの「食品から検出される薬剤耐性菌」に焦点を絞り、農業・畜産・水産の生産性を維持しながら、薬剤耐性菌の影響がヒトに対して可能な限り及ばないようにするための、one healthの理念である医学、農学、獣医学、水産学などの領域を越えた調査協力体制とその活動をご紹介し、迫り来る「薬剤耐性菌の脅威」を皆さまと一緒に乗り越える方策を考える機会にしたいと思います。

8. 次 第：

13：30 司会

石塚 真由美（日本学術会議第二部会員、北海道大学教授、公益社団法人日本獣医学会常任理事）

開会挨拶

高井 伸二（日本学術会議第二部会員、北里大学名誉教授、日本家畜衛生学会常務理事）

座長

関崎 勉（日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授、放送大学客員教授、京都大学大学院医学研究科研究員）

13：35 オープニング

田村 豊（日本学術会議連携会員、酪農学園大学獣医学群教授）

13：55 食肉

下島 優香子（相模女子大学栄養科学部教授）

14：15 魚

廣野 育生（東京海洋大学学術研究院海洋生物資源学部門教授）

14：35 野菜・果物

臼井 優（酪農学園大学獣医学類准教授）

14：55 総合討論

司会

関崎 勉（日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授、放送大学客員教授、京都大学大学院医学研究科研究員）

後藤 貴文（日本学術会議連携会員、鹿児島大学学術研究院農水産獣医学域農学系教授）

4名の講演者（田村、下島、廣野、臼井）

15：25 閉会挨拶

眞鍋 昇（日本学術会議第二部会員、大阪国際大学学長補佐教授）

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム  
「第7回理論応用力学シンポジウムー力学のさらなる発展に向けてー」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議機械工学委員会、総合工学委員会、土木工学、建築学委員会合同理論応用力学分科会
2. 共 催：公益社団法人日本工学会、公益社団法人応用物理学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人地盤工学会、公益社団法人土木学会、公益社団法人日本応用数理学会、一般社団法人日本風工学会、一般社団法人日本機械学会、公益社団法人日本気象学会、一般社団法人日本計算工学会、一般社団法人日本建築学会、一般社団法人日本原子力学会、一般社団法人日本航空宇宙学会、公益社団法人日本材料学会、公益社団法人日本地震工学会、一般社団法人日本数学会、公益社団法人日本船舶海洋工学会、公益社団法人日本伝熱学会、一般社団法人日本物理学会、一般社団法人日本流体力学会、一般社団法人日本レオロジー学会、公益社団法人農業農村工学会、日本計算数理工学会、日本混相流学会（予定）
3. 後 援：公益社団法人自動車技術会
4. 日 時：令和4年3月11日（金）13:00 ～ 17:00
5. 場 所：ハイブリッド開催（日本学術会議講堂及びオンライン）
6. 分科会の開催：開催予定あり
7. 開催趣旨：古典力学は、機械工学におけるいわゆる4力学（機械力学・材料力学・流体力学・熱力学）のように、学問分野ごとに確立された基盤学問のように捉えられがちである。しかし、力学が対象とする問題の多様化にともない、様々な学問分野にまたがる未解決の力学の問題が顕在化してきている。これら諸課題に取り組むためには、既存の基盤学問領域の枠にとらわれない広範囲な学問分野との融合が必要である。このことを背景に、本シンポジウムでは、古典力学研究の裾野を広げうる先端的研究に関する最新動向を俯瞰すると同時に、古典力学を基盤とする研究者が異分野と協働して新たに開拓すべき次世代力学研究を展望・討論する。特に本年度は、力学におけるデジタルツインをキーワードに、力学に関する様々な分野で現在まさしく活躍している研究者の方々にご講演を頂く。また後半では、国際理論応用力学（IUTAM）シンポジウムの提案を検討している研究者により、提案内容に関する講演を行う。最後の総合討論では、今後の力学教育や研究についてパネルディスカッション形式で意見交換を行い、学生や若手研究者の参加により、力学のさら

なる発展について皆で考えていくことを目指す。

8. 次 第：

司会：荒木 稚子（日本学術会議連携会員、埼玉大学理工学研究科・教授）

13:00 開会の挨拶

前川 宏一（日本学術会議第三部会員、横浜国立大学大学院工学研究院・教授）

13:10 招待講演（1）「Big data & extreme-scale computing による解析能力の向上」

市村 強（東京大学地震研究所・教授）

13:40 招待講演（2）「炭素繊維複合材を用いた航空機主翼設計のデジタル化、  
（ Digital transformation of aircraft wing design using carbon fiber  
composite materials ）」

阿部 圭晃（東北大学流体科学研究所・助教）

14:10-14:20 （ 休憩 ）

14:20 招待講演（3）「計測データと物理モデルの融合による全脳血液循環シミュレーションモデルの構築」

伊井 仁志（東京都立大学システムデザイン研究科・准教授）

14:50 招待講演（4）「New era of cross-scale modeling for materials design」

澁田 靖（東京大学大学院工学系研究科・准教授）

15:20-15:30 （ 休憩 ）

15:30-16:20 IUTAM提案講演

司会：山西 陽子（日本学術会議連携会員、九州大学大学院工学研究院・教授）

挨拶：堀 宗朗（日本学術会議連携会員、海洋研究開発機構(JAMSTEC)・部門長）

講演（5件程度）調整中

16:20-16:50 総合討論「今後の力学教育・研究について」

16:50 閉会の挨拶

高田 保之（日本学術会議第三部会員、九州大学大学院工学研究院・教授）

17:00 閉会

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム  
「女性の政治参画をどう進めるか？」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議法学委員会ジェンダー法分科会、政治学委員会比較政治分科会、社会学委員会ジェンダー研究分科会、第一部総合ジェンダー分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：ジェンダー法学会、内閣府男女共同参画局、都道府県議長会（打診中）、市議会議長会（打診中）、町村議会議長会（打診中）
4. 日 時：令和4年3月13日（日）13：30～17：30
5. 場 所：オンライン開催
6. 分科会の開催：未定
7. 開催の趣旨：

政治分野における男女共同参画推進法は施行後3年後の2021年6月10日に改正され、4条に政党の努力義務内容の充実化（候補者選定過程の改善、人材育成、セクハラ・マタハラ防止）、新8条に国・地方公共団体・議会の環境整備等に関する義務規定、新9条にセクハラ・マタハラ防止等が盛り込まれた。また、政府の「女性活躍・男女共同参画の重点方針2021」（2021年6月16日決定）は、国会議員候補者に占める女性の割合を、2025年までに35%以上にするよう政党に要請し、同期間に地方選挙でも女性候補者の割合を35%以上としている。本シンポジウムは女性の政治参画を進めることを目的とする改正法の実効性を高めるための施策及び積み残し課題について、諸外国等の事例を参照しつつ議論する。

日本学術会議法学委員会ジェンダー法分科会ではこれまで女性の政治参画に関する公開シンポジウムを2回開催し、研究者と当事者である議員を交えて議論を深め立法に寄与してきた（2016年11月12日「女性参政権70周年記念——ジェンダーの視点から選挙制度を問う」、2019年4月6日「男女がともにつくる民主政治を展望する——政治分野における男女共同参画推進法の意義」）。本シンポジウムでも、研究者および出産議員ネットワーク代表、法案作成に関わった議連メンバーを交えて、改正された政治分野における男女共同参画推進法の意義について議論する。

8. 次 第

- 13:30 開会の挨拶：南野佳代（日本学術会議第一部会員、ジェンダー法分科会委員長、京都女子大学法学部教授・副学長）
- 13:35 後援者からの挨拶
- 13:45 趣旨説明：三浦まり（日本学術会議連携会員、上智大学法学部教授）
- 13:55～15:20 **第一部 改正法を活かす**  
 司会：三成美保（日本学術会議連携会員、奈良女子大学研究院生活環境科学系教授）
- 13:55～14:10 「地方議会におけるハラスメント防止に向けて」  
 大倉沙江（筑波大学人文社会系助教）  
 江藤俊昭（大正大学社会共生学部教授）
- 14:10～14:25 「地方議会の環境整備について」  
 永野裕子（豊島区議会議員・出産議員ネットワーク代表）
- 14:25～14:40 「改正法におけるハラスメント対策・両立支援の規定を活かすための施策——男女雇用機会均等法・育児介護休業法・ILO ハラスメント条約を参考に」  
内藤忍（日本学術会議連携会員、独立行政法人労働政策研究・研修機構副主任研究員）
- 14:40～14:55 「イギリスからの示唆：候補者選定過程を中心に」  
武田宏子（日本学術会議連携会員、東海国立大学機構名古屋大学大学院法学研究科教授）
- 14:55～15:20 討論
- 15:20～15:30 （休憩）
- 15:30～16:40 **第二部 各国のクオータ事情**  
 司会：大串和雄（日本学術会議連携会員、東京大学大学院法学政治学研究科教授）
- 15:30～15:45 「フランスからの示唆」  
糠塚康江（日本学術会議連携会員、東北大学名誉教授）
- 15:45～16:00 「韓国からの示唆」  
 申琪榮（お茶の水女子大学ジェンダー研究所教授）
- 16:00～16:15 「アフリカからの示唆」  
遠藤貢（日本学術会議連携会員、東京大学大学院総合文化研究科教授）
- 16:15～16:40 討論

16:40～17:20 第三部 推進法の役割と今後の課題

司会：三浦まり

報告：政治分野における女性の参画と活躍を推進する議員連盟役員より数名

17:20 閉会の挨拶：大沢真理（日本学術会議連携会員、ジェンダー研究分科会委員、東京大学名誉教授）

三尾裕子（日本学術会議第一部会員、第一部総合ジェンダー分科会委員長、慶應義塾大学文学部教授）

真柄秀子（日本学術会議第一部会員、比較政治分科会委員長、早稲田大学政治経済学術院教授）

17:30 閉会

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）

## ○国内会議の後援（5件）

以下について、後援の申請があり、関係する部に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。

1. シンポジウム「研究環境の変貌と東洋学・アジア研究」

主催：東洋学・アジア研究連絡協議会  
期間：令和3年12月18日(土)  
場所：東洋学・アジア研究連絡協議会事務局を拠点にオンライン開催  
参加予定者数：約70～90名  
申請者：東洋学・アジア研究連絡協議会 会長 齋藤 明  
審議付託先：第一部  
**審議付託結果：第一部 承認**

2. 令和3年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会

主催：公益社団法人日本獣医師会  
期間：令和4年1月21日(金)～2月6日(日)  
場所：Webによるオンデマンド配信（事前収録）  
参加予定者数：約2,500名  
申請者：公益社団法人日本獣医師会 会長 藏内 勇夫  
審議付託先：第二部  
**審議付託結果：第二部 承認**

3. 第18回日本社会福祉学会フォーラム

主催：一般社団法人日本社会福祉学会  
期間：令和4年2月12日(土)  
場所：一般社団法人日本社会福祉学会事務局を拠点にオンライン開催  
参加予定者数：現時点では未定  
申請者：一般社団法人日本社会福祉学会 会長 木原 活信  
審議付託先：第一部  
**審議付託結果：第一部 承認**

#### 4. 2021 年度全国公正研究推進会議

主催：一般財団法人公正研究推進協会

期間：令和4年2月22日(火)10時～18時35分

場所：一般財団法人公正研究推進協会オフィスまたは貸会議室を拠点にオンライン  
開催（ライブ配信）※一部オンデマンド配信予定

参加予定者数：約600名

申請者：一般財団法人公正研究推進協会 理事長 浅島 誠

審議付託先：科学者委員会

審議付託結果：科学者委員会 承認

#### 5. 第95回日本薬理学会年会 企画シンポジウム「疾患の理解に向けた領域融合型研究基盤の構築」

主催：第95回日本薬理学会年会

期間：令和4年3月7日(月)～9日(水)

場所：福岡国際会議場・福岡サンパレス

参加予定者数：約200名

申請者：第95回日本薬理学会年会年 会長 宮田 篤郎

審議付託先：第二部

審議付託結果：第二部 承認

## ○今後の予定

## ●幹事会

第319回幹事会	令和3年	12月24日(金)	13:30から
第320回幹事会	令和4年	1月27日(木)	13:30から
第321回幹事会	令和4年	2月24日(木)	13:30から
第322回幹事会	令和4年	3月24日(木)	13:30から

以降の幹事会日程は追って調整

## ●総会

第183回総会	令和3年12月2日(木)～3日(金)
---------	--------------------

※オンライン参加の併用により開催予定